

# 健康課税における大学生の行動調査 ～ 未成年飲酒にもたらす影響～

内藤 瑠星<sup>1</sup>・北村 大地<sup>2</sup>・徳田 愛果<sup>3</sup>・江口 葉月<sup>4</sup>・森 一将<sup>5</sup>

<sup>1</sup> 非会員 文教大学 経営学部 経営学科  
E-mail:b8r11123@bunkyo.ac.jp

<sup>2</sup> 非会員 文教大学 経営学部 経営学科  
E-mail:b8r11053@bunkyo.ac.jp

<sup>3</sup> 非会員 文教大学 経営学部 経営学科  
E-mail:b8r11120@bunkyo.ac.jp

<sup>4</sup> 非会員 文教大学 経営学部 経営学科  
E-mail:b8r11028@bunkyo.ac.jp

<sup>5</sup> 正会員 文教大学 経営学部  
E-mail:morik@bunkyo.ac.jp

本研究では、健康課税に対する行動調査において、酒税の増税によりアルコール飲料の値段が上がることで、我々成年の課税に対する購買行動を明らかにする。アルコールには依存性や麻酔性もあるため、20歳未満による過度な飲酒で急性アルコール中毒などのアルコール問題が起こる可能性がある。したがって未成年者の飲酒が禁止される理由を知ること、お酒に対して正しく向き合えるようにする必要がある。この研究を通じ、未成年飲酒の状況を把握することで、アルコール依存症や急性アルコール中毒で死亡する事故、傷害・犯罪など、警察沙汰になり兼ねない状況を少しでも緩和し、不祥事を未然に防ぐことはできるか。また、調査内容により、酒税の増税による大学生の未成年飲酒を低減することができるかを分析する。

**Key Words :** 未成年飲酒、酒税、大学生、増税、アルコール

## 1. はじめに

本研究では、健康課税に対する行動調査において、酒税の増税によりアルコール飲料の値段があがることで、我々成年の課税に対する購買行動を明らかにする。

<sup>1</sup>酒税は2020年10月に税率の変化が起き、今後2026年までの間、計3回改正される予定である。今回の改正では新ジャンルとなる「第三のビール」一缶(350ml)あたり約10円増額、果実酒・ワイン(350ml)あたり約3.5円増額する。これら税率の変化で我々成年の購買行動に与える影響を調査する。また、大学生内の未成年における飲酒問題に着目し、酒税の変化による購買行動が未成年飲酒の問題に影響を与える可能性があるかを検討する。大学生になると、実際にお酒に関わる機会がある。それによる未成年飲酒がサークルや部活動で多発している。未

成年飲酒が法律で禁止されていることは当然であるが、アルコールには依存性や麻酔性もあるため、20歳未満による過度な飲酒で急性アルコール中毒などのアルコール問題が起こる可能性がある。したがって未成年者の飲酒が禁止される理由を知ること、お酒に対して正しく向き合えるようにする必要がある。

この研究を通じ、未成年飲酒の状況を把握することで、アルコール依存症や急性アルコール中毒で死亡する事故、傷害・犯罪など、警察沙汰になり兼ねない状況を少しでも緩和し、不祥事を未然に防ぐことはできるか。また、調査内容により、酒税の増税による大学生の未成年飲酒を低減することができるかを分析する。

## 2. 実験の概要と手続き

2020年11月18日～11月30日に大学生89名（男性58名、女性31名）を対象に、酒税の増税による購買意欲に関する調査（7項目）、未成年飲酒に関する調査（4項目）、成年の飲酒傾向に関する調査（2項目）、大学のクラブ活動の所属に関する調査（2項目）を実施した。このアンケートのうち、「酒税の増税による購買意欲に関する調査」は4件法、「未成年飲酒に関する調査」および「成年の飲酒傾向に関する調査」は複数選択回答法によるアンケートとした。

## 3. 分析結果

分析した結果、有意が見られた3つの分析について考察を記す。

図1では未成年飲酒に対して悪い行為かに対し、思わない傾向が強く出ている。これは、大学生には未成年飲酒を犯罪だという自覚が薄く、悪い行為だと考えずに飲んでいることがわかる。

さらに、思うは、まあ思う、思わない、どちらでもないの3つにおいて有意差がみられ、まあ思うは、思わないに有意差がみられた。

このことは、未成年飲酒の行動に罪の意識が影響を与えたということが明らかである。

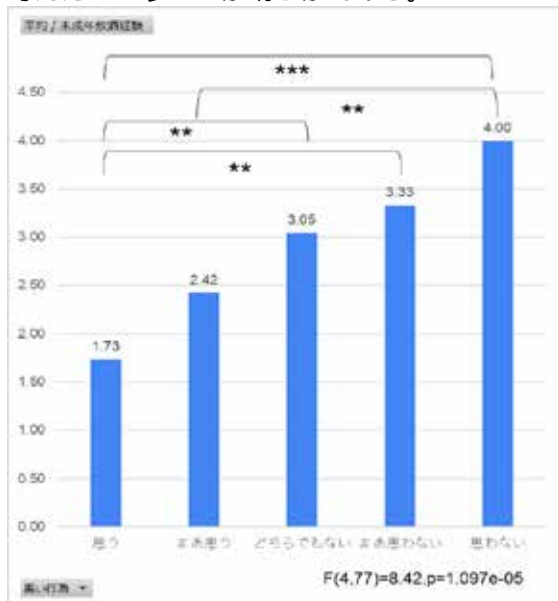


図1 未成年飲酒の罪の意識と経験の平均値

次に、増税対象の摂取得点（増税による飲む機会の増減 + 増税で宴会の頻度の増減 + 増税対象になったお酒の増減）と、お酒を飲む際誰と飲むことが多いかを検証した。結果は図2の通りである。

両親と飲んでいる大学生に着目すると、他の3つの項目全てと有意さをもっており、かつ、他の項目よりも数値が高い得点が出た。

これは、両親と飲むと答えた大学生は増税対象になったお酒を飲むとを控えるということだ。つまり、

両親と飲んでいる大学生は、増税への意識が高いことが示唆されており、環境や状況の変化に柔軟であることがわかる。

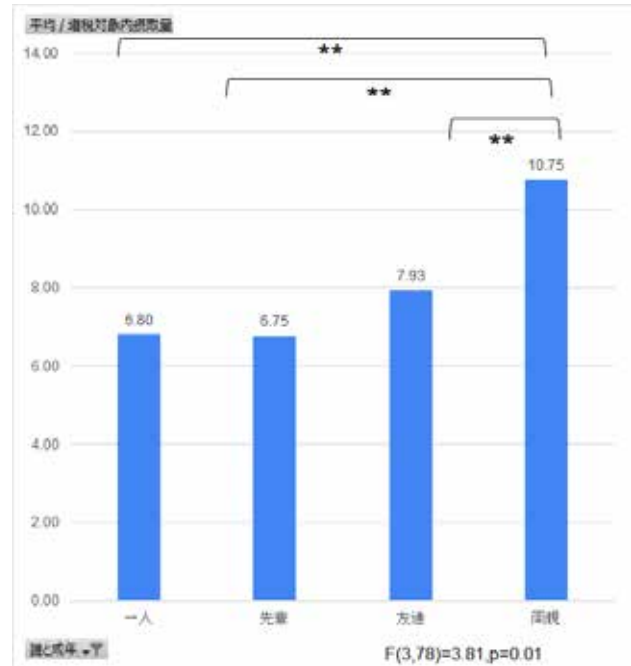


図2 増税対象の摂取得点と誰と飲酒するかの平均値

3つ目の結果は、未成年飲酒回数と増税対象外摂取得点（増税で飲む量 + 増税対象外のお酒増減）である。

これは、未成年飲酒をしているものに、増税にならなかったお酒の摂取頻度をグラフ化したもので、未成年飲酒の回数が0回と4回以上の項目に有意差が見られた。これは、未成年飲酒を全くしない層と比較的多くする層が増税対象にならなかったお酒の飲む頻度に影響を与えていることがわかる。

つまり、全く飲まない層も比較的多く飲む層も増税対象外の飲む量は変えないという結果だ。

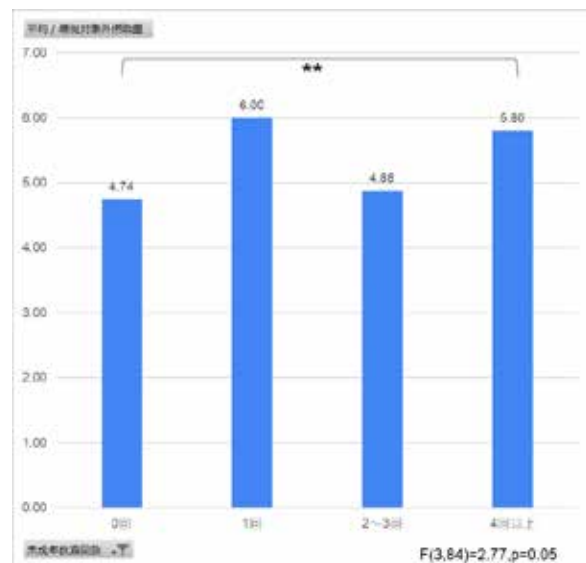


図3 未成年飲酒回数と増税対象外摂取得点の平均値

## 4. 結論

本研究では、大学生を対象とし、未成年飲酒の罪の意識に対する経験、増税対象になったお酒の飲む頻度に対する誰と飲むかの傾向、増税対象にならなかったお酒の飲む頻度に対する未成年飲酒回数の傾向が明らかになった。これは、未成年飲酒を重く考えていない大学生が多く存在しており、増税対象外の飲酒頻度を未成年飲酒回数に関わらず変動させない傾向にあった。しかし、増税による影響でお酒に対する購買行動を、共に飲む人間によって変化させていることがわかった。本分野の進展を反映させることでお酒の値段が上がると飲酒に対する関わり方に変化が現れる。また、未成年者飲酒禁止法をより多くの未成年者に周知させていき、酒税の税率変化を調整することで大学生の飲酒の購買行動に変化が生じ、未成年飲酒の低減に貢献できることが期待される。

## 5. 参考文献

<https://money-viva.jp/money-jiten/0032/>

<sup>1</sup> マネーを楽しむ学びば(マネービバ)三井住友銀行『発泡性酒類』の税額の変化